

いじめと不登校の未然防止に係る学校の方向性・取組

いじめと不登校は、学校や家庭はもちろん、社会的に大きな問題です。予兆を感じ取ったり、早期に対応したり、早期に解決したりすることが大切ですが、未然に防止することも大切です。ここでは、未然防止について、澄川小学校で取り組むことをお伝えします。



いじめと不登校の未然防止

学校が、児童にとって「行きたいと思える場所」であること

☆よさが認められ、支えられる場所であること（教師が児童に）

- ①児童のよい行為を褒める。
- ②児童のよい行為を他の児童に伝わる場面を位置付ける。
- ③心配な児童に声を掛ける。



【具体例】

- ①授業でよい発言をしたり、間違っても参考となるような意見を述べたりした場合は、よさの具体を示して褒める。
- ②そのような行為をしたことを、ほかの児童にも伝える。
※本人に確認するなど伝え方の工夫が必要
- ③普段と異なる様子の児童には、一人になったときに、そっと声を掛ける。明確な回答がなくても、「いつでも聴くよ」など力になることを伝える。

☆仲間に、よさを認められ、支え合う場所であること（児童同士で）

- ①授業などで話し合う場を意図的・計画的に位置付ける。
- ②児童がよいところを仲間が認めることができる場を位置付ける。



【具体例】

- ①②グループ活動や実験など役割分担する学習を進めることで、仲間のよいところを認めたり、助け合ったり、自分の気付かなかったことを教えてもらったりして、相手のよさを認める力を身に付けさせる。
 - ・仲間がいたから解決できた、という学習内容
 - ・「〇〇さんは、これが得意だから□□を頼むね」と仲間同士で話ができる場面

☆学校が、児童の不安感を把握し、支える環境が整っていること（教師間で・教師と保護者で）

- ①教師間で情報を共有する。
- ②教師と保護者が共通理解を早めに図る。
- ③学校と家庭が役割を分担しながら児童を支える。



【具体例】

- ①教師が気づいたことや心配なことなどを遠慮なく言える職員室にします。
- ②保護者の皆様が心配なことについて、学校に相談しやすい関係を築きたいと考えています。学校も連絡しますし、皆様もすぐに連絡をください。
- ③「児童にどのような声を掛ければよいか」「学校では〇〇のように指導しましたので、おうちでは□□をお願いします。」と確認し合い、ご家庭でも学校でもよりよい指導をしていきましょう。

いじめと不登校の未然防止にこのように取り組めます